

出土銭貨について

宮花町遺跡では、数少ない遺物の1つとして、古銭が7枚出土しています。この内2枚は包含層中から、残りの5枚は重なった状態で配石列付近から出土しました。包含層中から出土した2枚は「元豊通寶（1078年初鑄）」と「熙寧元寶（1068年初鑄）」で、いずれも中国の北宋時代（960年～1127年）に鑄られたものです。また、重なった5枚の内、判読可能な1枚は「皇宋通寶（1039年初鑄）」で、やはり北宋銭の1つです。これらは、人骨、あるいは配石列付近から出土していることから、遺体に供えられた六道銭（六文銭）の一部であるものと見られます。

出土人骨について

今回の調査では、人骨が13体分出土しました。これらの多くは、配石列の周辺から出土しており、中には8号人骨のように、配石列の上に置かれたような状態で出土したものもあります。3号・5号・6号人骨のように頭蓋骨が単体で出土したものや、1号・2号・4号人骨のように大腿骨が伴って出土したものもあります。

人骨の遺存状態はそれほど良好とは言えませんが、完全には分離せず、ある程度まとまった状態で出土していることから、遺体を配石列の上、あるいは配石列付近に安置した後、土などをかけて埋葬したと考えられます。また、全身骨が揃っていないことや毛髪がないこと、下顎骨や歯骨が大きく脱落していないことなどから、これらの人骨は他の場所で一旦埋葬した後、再度この地に埋葬された可能性も指摘できます。

なお、人骨の一部を年代測定した結果、今から約600年前（室町時代）の年代が得られたことから、これらの人骨は中世に埋葬されたものと見られます。

周辺地域では、昭和30年頃に須沢の本田浜で、扁平な川原石と共に多数の人骨が出土しています〔青木1966〕。これらの人骨は弥生人の可能性も指摘されていますが、年代ははっきりしていません。出土状態がよく似ていることから、本遺跡と同様の遺跡であった可能性もあります。

まとめ

今回見つかった配石列及び人骨・古銭は、中世における糸魚川地域の葬送儀礼を知る上で貴重な事例と言えます。今後、周辺地域の類例を調査すると共に、今回出土した人骨や遺物をさらに詳しく分析することによって、宮花町遺跡の性格を明らかにしていきたいと考えています。

参考文献

青木重孝 1966 『青海 ーその生活と発展ー』 青海町役場



出土銭貨

(左から元豊通寶・熙寧元寶・皇宋通寶)



3号人骨（南東正面から）



本田浜出土人骨〔青木1966〕

みやばなちょう いせき 宮花町遺跡

平成22年10月8日（金）

国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所
財団法人 新潟埋蔵文化財調査事業団
藤村ヒューム管株式会社

はじめに

今回の調査は、一般国道8号糸魚川地区橋梁架替工事に伴うものです。事前の試掘調査で、配石列と15世紀前半の人骨（顎の骨）が確認されたことから、遺跡の存在することが新たに判明し、今回の発掘調査を行いました。

遺跡の立地

遺跡は糸魚川市青海町字黒岩に所在します。青海川河口付近の左岸に立地し、北側約100mには日本海が広がっています。遺跡の裏手には石灰岩を産することで有名な黒姫山があり、山裾は急傾斜して日本海と接します。海岸線までの狭い平地には石灰工場、旧国道、JR北陸本線、一般国道8号が集中しています。

調査区は盛土上の現況地盤で標高約7mです。遺跡は現地表下1.5mにあり、標高は5.5mです。現在は人工物に覆われて元の地形が分かりにくいですが、山裾から波打ち際まで小石や砂が続く海岸風景が広がっていたと考えられます。



調査前の調査区近景（北東から）



遺跡位置図（国土地理院発行 1:50,000地形図を一部改変）